科目ナンバリング	U-LAS41 10001 PJ49						
授業科目名 <英訳>	スポーツ実習ＩＡ ［バドミントン］ Sports I A [Badminton]			担当者所属 職名・氏名	非常勤講師 渡邉　哲義		
群	健康・スポーツ科目群	分野(分類)	スポーツ実習		使用言語	日本語	
旧群	D群	単位数	1単位	週コマ数	1コマ	授業形態	実習（対面授業科目）
開講年度・ 開講期	2026・前期	曜時限	木1	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

人生80年以上となった今日、生涯にわたってスポーツを親しむ「スポーツライフ」を送れることが大きな意義を持つようになりました。スポーツを行うことは、心身の健康維持・増進に役立つだけでなく、“仲間づくり”や“生きがいづくり”にも効果的です。このようなスポーツ活動を高齢期になっても継続するためには、学童期から学生時代までのライフスタイルの中で、自分自身がどのようにスポーツと関わりを持つのかが重要な鍵となります。

本授業では、生涯スポーツとしてのバドミントンを実践することで、スポーツの親しみ方や楽しみ方を学び、大学卒業後も自らが豊かなスポーツライフを設計・実践できる能力を培うことを目標としています。

[到達目標]

①知識・技能の観点
- バドミントンの基礎的・実践的技術について習得する。
- バドミントンの成り立ちやルールについて理解し、その種目に親しむことができる。

②思考力・判断力・表現力等の能力の観点
- 実際の競技中において適切なプレーを判断し、実践することができる。
- 仲間と十分なコミュニケーションを図りながらプレーすることができる。

③主体的な態度の観点
- 積極的に授業に参加し、競技の運営・準備を円滑に進めることができる。
- 学習を振り返り、適切な改善点を考えながら取り組むことができる。

[授業計画と内容]

第1回 オリエンテーション
第2回 バドミントンの歴史
第3回 バドミントンディマンド
第4回 初心者とはなにかを考える
第5回 基礎的技術の原理
第6回 基礎的ストローク技術の習得(１)ドライブ
第7回 基礎的ストローク技術の習得(２)ヘヤピン・ロブ
第8回 基礎的ストローク技術の習得(３)ドロップ
第9回 基礎的ストローク技術の習得(４)クリアー
第10回 基礎的ストローク技術の習得(５)スマッシュ
第11回 基礎的ストローク技術の習得(６)ネットプレー
第12回 基礎的ストローク技術の習得(７)サービス
第13回 ミニゲームからゲームの構造を考える
第14回 ダブルスゲームから戦術・戦略論を考える
第15回 フィードバック

スポーツ実習ＩＡ ［バドミントン］ (2)へ続く↓↓↓

スポーツ実習ＩＡ　［バドミントン］ (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。
授業参加度80%、レポート20%

①知識・技能の観点
・バドミントンの基礎的・実践的技術について習得できているかどうか。
・バドミントンの成り立ちやルールについて理解し、その種目に親しむことができているかどうか。
②思考力・判断力・表現力等の能力の観点
・実際の競技中において適切なプレーを判断し、実践することができているかどうか。
・仲間と十分なコミュニケーションを図りながらプレーすることができているかどうか。
③主体的な態度の観点
・積極的に授業に参加し、競技の運営・準備を円滑に進めることができているかどうか。
・学習を振り返り、適切な改善点を考えながら取り組むことができているかどうか。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

次回の授業範囲における専門用語の意味等を理解しておくように予習すること.

[その他（オフィスアワー等）]

スポーツ実習の履修には保険への加入が必要です。原則として「学生教育研究災害傷害保険」（学研災）および「学研災付帯賠償責任保険」（付帯賠責）に、留学生は学研災および「学生賠償責任保険」（学賠）に加入して、授業に参加してください。

[主要授業科目（学部・学科名）]